

Ⅰ 「生徒による授業評価」報告書について

- 全県立高等学校及び中等教育学校（後期課程）における冬季休業前の「生徒による授業評価」の結果、「生徒による授業評価」に関わる取組及び授業改善に向けた取組などについて集計・分析した。
- 令和元年度の「生徒による授業評価」の評価結果の回答総数は次のとおりである（第1表、第2表）。

第1表 共通教科回答総数

国語	地歴	公民	数学	理科	保体	芸術	外国語	家庭	情報
146,326	100,226	43,520	121,814	126,851	168,608	51,166	167,058	48,328	35,813

第2表 専門教科回答総数

農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報	福祉	理数	体育	音楽	美術	英語
7,910	25,385	14,858	1,286	3,574	612	509	2,566	33	1,428	360	782	1,169

- 令和元年度から、高等学校学習指導要領の改訂等に対応するため、すべての質問項目を改訂した（第3表）。

第3表 「生徒による授業評価」の質問項目（共通小項目）

大項目	共通小項目（標準例）		項目の趣旨
授業の在り方について	1	毎時間の授業や単元（内容のまとまり）のはじめに学習のねらいを示したり、毎時間の授業や単元の学習のあとに学習したことを振り返ったりする機会がある	「主体的な学び」に関する項目
	2	単元（内容のまとまり）の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある	「対話的な学び」に関する項目
	3	単元（内容のまとまり）の学習の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある	「深い学び」に関する項目
学習の状況について	4	授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができた	「項目1」と関連の深い項目
	5	他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた	「項目2」と関連の深い項目
	6	授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができた	「項目3」と関連の深い項目
	7	授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた	より高次な学びの構築に関する項目

- 学校で取り組んでいる研究の成果指標として活用したり、生徒の実態に即した項目を設定したりするため、共通小項目に加えて、学校独自の小項目を設定することができる。各学校で独自の小項目を設定する際の参考のため、学校独自の小項目の例を掲載する。

- 論理的思考力が育まれる学習活動／学習機会がある
- 情報を収集し、活用する能力を育てる学習活動／学習機会がある
- グローバルな視点で物事を考える学習活動／学習機会がある
- 読解力：情報（文章、図、グラフ、表など）を正確に読み取る力が身に付いた
- 批判的思考力：情報の事実と意見を区別し、根拠に基づいて自らの意見を考える力が身に付いた
- 表現力：情報を整理し、他者に伝える力が身に付いた
- 学期の振り返り、次の学期は、どのように取り組みたいか（記述）
- 授業への要望（記述）

2 集計・分析の結果

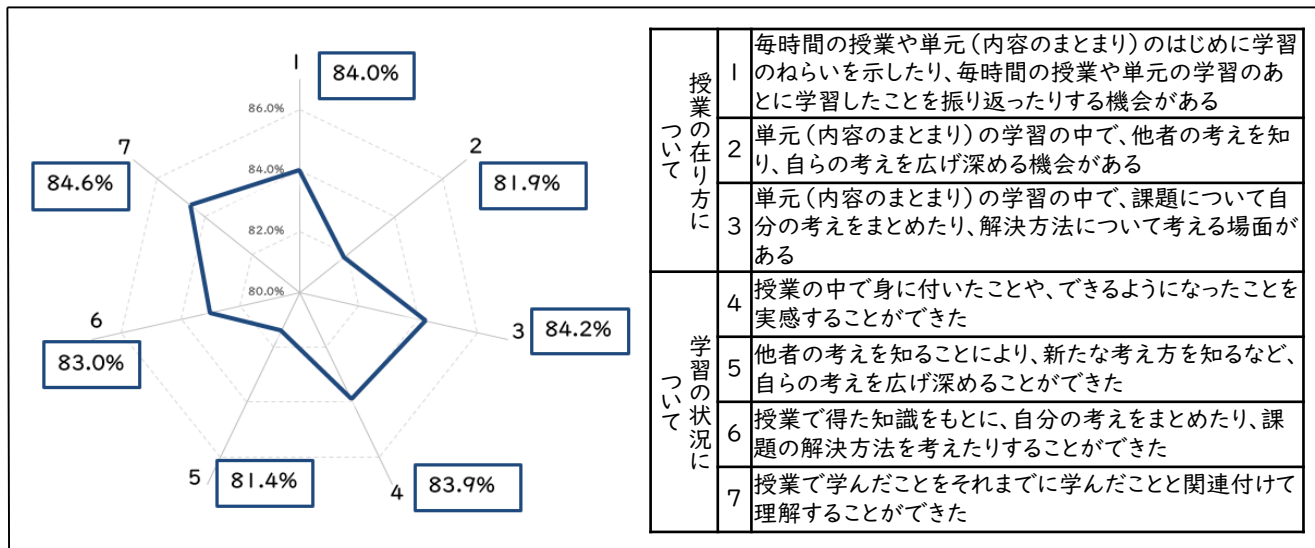
(1) 共通教科について

○各教科及び全体について、肯定的な回答(評価「4 かなり当てはまる」又は「3 ほぼ当てはまる」)をした割合を、共通小項目ごとに示した(第4表)。

第4表 共通教科の集計結果 ※割合(%)は少数第2位を四捨五入

共通小項目	国語	地歴	公民	数学	理科	保体	芸術	外国語	家庭	情報	全体
1	83.9%	84.6%	83.3%	83.2%	82.3%	86.0%	84.2%	84.7%	83.5%	80.9%	84.0%
2	85.1%	79.4%	81.4%	79.1%	78.2%	83.9%	81.9%	84.2%	81.8%	77.6%	81.9%
3	86.2%	81.3%	82.9%	84.4%	82.4%	86.0%	83.7%	85.0%	83.6%	81.7%	84.2%
4	82.8%	82.1%	81.5%	83.6%	80.8%	87.2%	87.7%	84.2%	84.9%	84.6%	83.9%
5	83.7%	79.7%	81.9%	79.0%	77.8%	84.2%	82.9%	82.0%	81.5%	79.0%	81.4%
6	83.4%	81.4%	82.2%	82.5%	80.7%	85.6%	83.9%	83.6%	82.9%	81.7%	83.0%
7	84.1%	84.8%	84.6%	83.6%	82.5%	86.6%	85.1%	85.3%	84.6%	83.1%	84.6%

○共通教科全体について、肯定的な回答をした割合を、共通小項目ごとにレーダーチャートで示した(第1図)。



第1図 共通教科全体において、肯定的な回答をした割合

- 共通教科全体において、すべての共通小項目で、肯定的な回答をした割合が80%を越えており、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した各学校における日頃の教育活動の成果の現れであるといえる。
- 共通教科全体において、共通小項目「2 単元(内容のまとまり)の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある」と「5 他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた」が、他の項目と比較すると低くなっていることが分かる。このことから、各学校においては、生徒一人ひとりが、授業の中で他者の考えを知り、自分の考えを広げ深めることができるように、より積極的に「対話的な学び」を推進していくことが必要である。

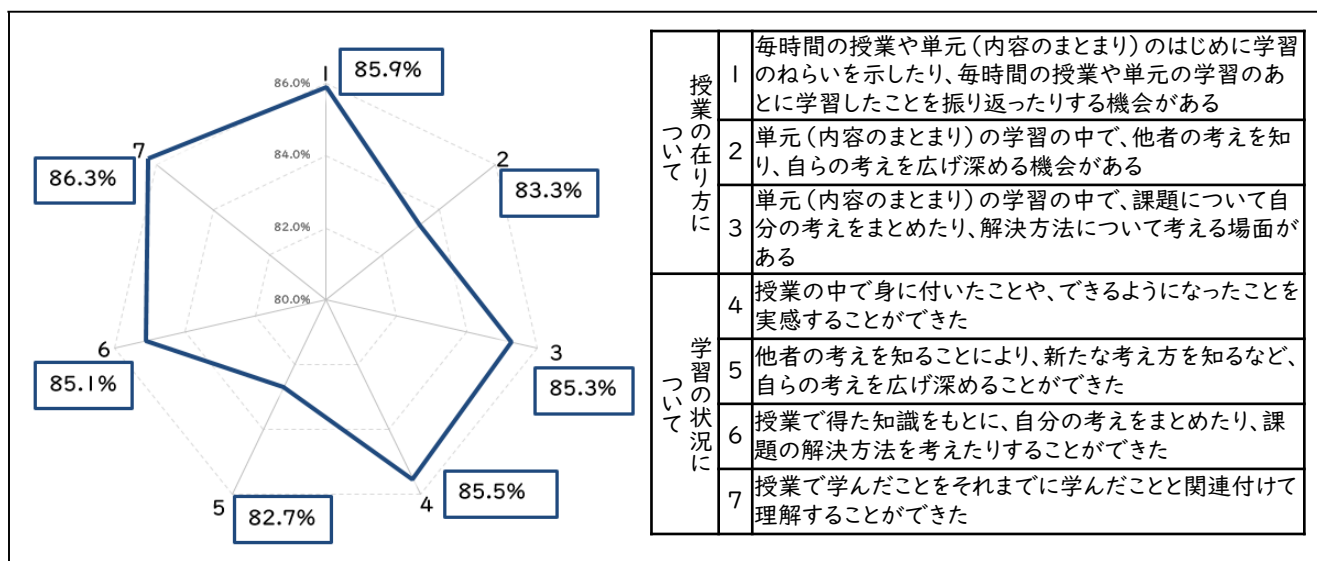
(2) 専門教科について

○各教科及び全体について、肯定的な回答(評価「4 かなり当てはまる」又は「3 ほぼ当てはまる」)をした割合を、共通小項目ごとに示した(第5表)。

第5表 専門教科の集計結果 ※割合(%)は少数第2位を四捨五入

共通小項目	農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報	福祉	理数	体育	音楽	美術	英語	全体
1	83.7%	85.3%	84.4%	86.5%	90.2%	97.2%	87.4%	90.9%	81.8%	91.4%	87.7%	89.9%	90.8%	85.9%
2	79.9%	82.4%	82.3%	80.8%	90.4%	96.7%	83.2%	90.6%	78.8%	89.5%	85.3%	89.4%	91.8%	83.3%
3	82.7%	84.0%	84.5%	84.1%	92.4%	98.7%	86.6%	92.4%	90.9%	90.7%	88.6%	90.5%	92.0%	85.3%
4	85.5%	83.3%	84.7%	87.5%	93.2%	97.9%	88.9%	92.3%	84.8%	92.6%	93.3%	88.0%	91.9%	85.5%
5	80.8%	81.6%	80.5%	81.0%	91.0%	97.4%	83.0%	91.2%	84.8%	90.1%	85.2%	88.9%	91.0%	82.7%
6	82.5%	84.9%	83.0%	84.4%	91.1%	98.0%	87.3%	91.5%	87.9%	90.0%	88.8%	87.3%	92.0%	85.1%
7	84.7%	85.5%	84.6%	87.0%	92.4%	98.4%	88.8%	92.3%	87.5%	91.2%	91.7%	87.5%	93.2%	86.3%

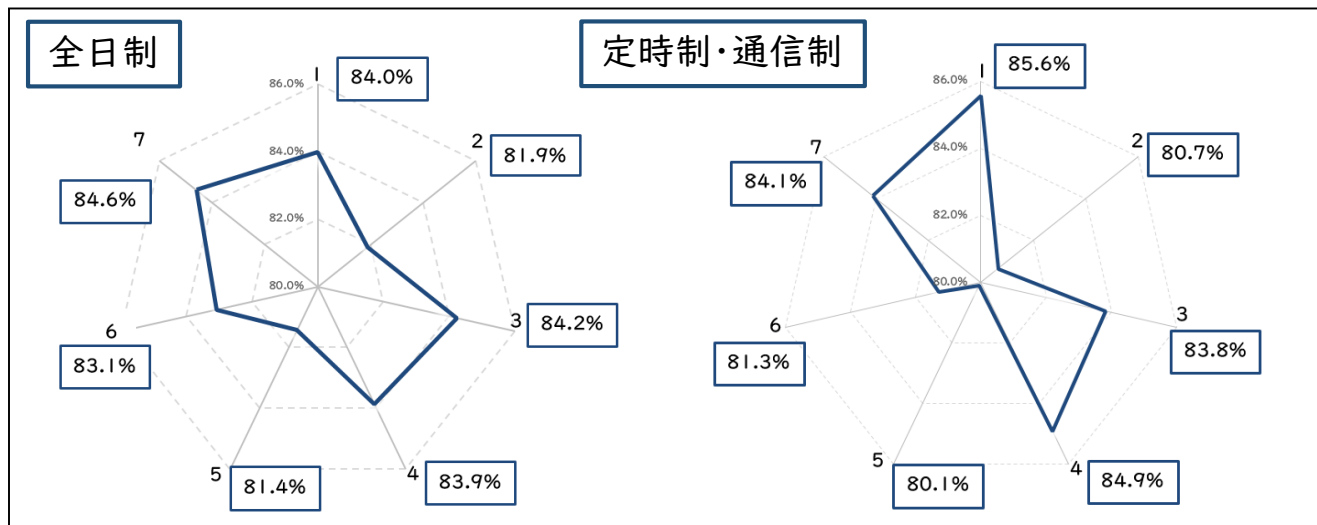
○全問教科全体について、肯定的な回答をした割合を、共通小項目ごとにレーダーチャートで示した(第2図)。



第2図 専門教科全体において、肯定的な回答をした割合

(3) 全日制課程及び定時制・通信制課程について

○全日制課程と定時制・通信制課程の共通教科全体において、肯定的な回答をした割合を、共通小項目ごとにレーダーチャートで示した(第3図)。



第3図 共通教科全体(課程別)において、肯定的な回答をした割合

3 「生徒による授業評価」に関わる取組、授業改善に向けた取組など

(1) 「生徒による授業評価」の活用

「生徒による授業評価」をどのようにいかしているかについて、各学校から次のような回答があった。

- 学校独自の小項目（生徒に身に付けさせたい力）の達成状況を分析し、授業を見直すとともに、生徒が授業への取組を振り返るきっかけとしている。
- 集計結果を時系列で比較し、そこから見いだした課題をもとに、翌年度の「組織的な授業改善に向けた取組」の評価規準を設定している。
- 生徒から授業の改善点、要望や授業の雰囲気などの意見を聞くことで、授業改善を図った。
例えば、グループで考える時間を増やしてほしいと意見があったため、授業の時間配分の見直しなどを行った。
- 評価の高い科目の授業の取組を共有する研修を実施している。
- 評価の低い項目については、各教科で検討し、授業展開や教材の使用方法などの授業改善を模索している。

(2) 「生徒による授業評価」に関する課題やその解決方法

「生徒による授業評価」に関する課題やその解決方法について、各学校から次のような回答があった。

- 生徒の意見・要望等をより具体的に把握するため、「生徒による授業評価」と並行して行っている自由記述欄の内容を分析し、授業改善にいかす方法を考えていくことが今後の課題である。
- Googleフォームを活用して「生徒による授業評価」を実施したことで、各教科担当や係による入力への労力は省けたが、生徒にとっては機械的な作業の連続になってしまった恐れがある。「生徒による授業評価」の意義を丁寧に説明していく必要がある。
- 科目によっては、授業者が授業のねらいに基づいたアンケートを作成し、授業改善にいかしている。
- 共通小項目の質問内容を理解しにくいと感じている生徒もいる。例示をするなど、質問内容の補足説明をすることで対応していく必要がある。
- 日頃より生徒の疑問質問等に対応する時間を設けるように努力し、生徒たちが授業に対して前向きな取組ができるように指導を続けている。結果的にそれが「生徒による授業評価」に真摯に答える生徒の増加にもつながると考える。

(3) 「生徒による授業評価」以外の授業改善に関する取組

「生徒による授業評価」以外の授業改善に関する取組について、各学校から次のような回答があった。

- 近隣の中学校と互いに授業や研究協議に参加している。
- チーム・ティーチングで行う授業におけるT2の指導の在り方など、支援が必要な生徒への手立てについて研究している。
- 授業のワークシートやスライド等の教材を共有フォルダで管理し、他の授業でも活用できるようにしている。
- 1時間の授業又は単元の終末に「振り返りシート」を使って、生徒の理解度や授業の分かりやすさを把握している。
- 授業やHRで、共通して取り組むべき手立てをまとめた冊子を作成して、授業方法の標準化を図っている。
- 授業におけるChromebookの活用例などの研修会を実施している。

4 「生徒による授業評価」のよりよい活用のために

- 生徒の確かな学力を向上させるためには、「組織的な授業改善」の推進が重要である。そのための一つの方策として、「生徒による授業評価」の活用があげられる。本報告書で示した集計・分析の結果や各学校の取組を参考にして、各学校の実態に即した授業評価を行い、「組織的な授業改善」にいかしていただければ幸いである。